

～がんばる船高生～ **ATTENTION!**

第31回 情報処理技能検定試験（表計算）1級に合格した 吾妻 翼さん

本校のビジネスコースでは、商業や家庭科の授業内容を基礎として各種検定・資格の取得を奨励しています。

昨年12月に行われた「情報処理技能検定試験（表計算）」（日本情報処理検定協会主催）では、2年生1人が1級に合格しました。

この検定は、パソコンの表計算ソフト「Excel」の有効な利用を通じて、情報処理能力を身につけるとともに、情報化社会の中でコンピュータ活用能力の向上を図ることを目的に、年4回行われています。試験内容は入力データを基に関数を用い、処理条件に従って表とグラフを30分間で作成するものです。

1級に合格した吾妻翼さん（2年 大越中出身）に話を聞きました。



▲1級に合格した吾妻さん

—なぜ、この試験を受けようと思いましたか？

吾妻さん 授業では2級程度の内容を勉強しています。授業を受けていると「Excel」が楽しくなり、もっと難しい内容の勉強をしてみたいと思い、1級を受ける決意をしました。また、私は高校卒業後、就職を希望しています。職種については、まだ決定していませんが、今の時代どのような職種に就いてもパソコンを使用する機会があると思います。その中でも、特に「Excel」や「Word」を使用する機会が多いと聞いたので、その2つが得意になりたいという思いもあり受けました。

—試験に向けてどのような準備をしましたか？

吾妻さん 1級は、授業で全然習っていない内容です。だから、初めは問題の意味がまったく分かりませんでした。しかし、解説を何回も何回も読み、徐々に理解することが出来ました。

初めは解説を見ながら、50分程度かけて過去

問を解いていましたが、回数を重ねると20分程度で解けるようになり、過去問を解くことが楽しくなりました。そして、合格する自信ができました。

—合格したときの感想は？

吾妻さん 正直、ホッとしました。練習の段階では、受かる自信がりましたが、結果が出るまでドキドキしていました。

—次の目標はなんですか？

吾妻さん 他の検定試験に合格することです。漢字検定1級や文書デザイン検定（Word）1級などの資格の取得を目指しています。知らないことを知るといことは、学問を深められて、とても楽しいと感じ、毎日1時間は検定試験に向けて学習しています。努力によって成果が出るという経験を積み重ねることで、自分に自信をつけていきたいと考えています。

◆家庭クラブが老人ホームへ寄贈

1年生の家庭クラブ会員が作った雑巾と、たむら支援学校の生徒と本校家庭クラブ役員が協力して作ったクリスマスリースを高齢者施設へ寄贈しました。

生徒は、高齢者施設の方に「ありがとう」と言われて、とてもうれしかったと話していました。

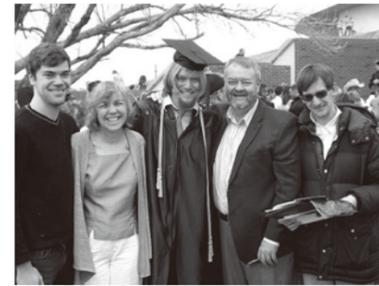
思いやりの心と奉仕の精神を養うことができました。



▲クリスマスリースを作った生徒のみなさん



福島県立船引高等学校 Tel...0247-82-1511 Fax...0247-82-5233
HP...<https://funehiki-h.fcs.ed.jp> mail...funehiki-h@fcs.ed.jp



再びこの季節が巡ってきました。正装する先生。体育館に人が集まり、それまでの努力を示す卒業証書を受け取るために生徒たちが壇上へと向かう姿。それらを見る時です。人生の新しい一步を踏み出そうとしているすばらしい生徒たちにお別れを言う時です。一年でとてもすばらしい時。今年も再び卒業式に出席できることを楽しみにしています。

卒業式の季節



Tim Case
ティム・ケイスさん
(アメリカ合衆国
ニューメキシコ州出身)
田村市に来て2年目

私は行事の三つのことに注目しました。一つ目は、式を行う体育館の飾りつけを一年生と二年生がしていたことです。三年生は飾りつけをしていませんでした。それは、在校生が卒業生を送り出すために、式を重んじる興味深い方法だと思いました。二つ目は、在校生が卒業生にお別れの歌を歌ったことです。そして、卒業生が在校生に向けてお別れの歌を返したことです。歌はとても感動的で美しかったです。三つ目は、式の最後に、在校生と教師が体育館の外に出て、卒業生が体育館から退出して中学校生活の終わりを迎えるのを拍手で見送ったことです。今月再び卒業式に出席できることを楽しみにしています。卒業生全員の幸運を祈りながらも、学び舎を去る生徒たちを見送ることにとっても寂しさを感じます。しかし、卒業式は卒業生を祝福する時であり、彼らにとっては人生の新たなページを始める時です。体育館に集まり、三年間学んだ成果である卒業証書を三年生がいただくのを見送る時です。先生たちにとっては、田村市の聡明な生徒たちにお別れを言う時なのです。その季節が再び巡ってきたのです。

海を越えて 英語指導助手ペンリレ No. 80

海への旅行



Mekayla Morrison
マケラ・モリスンさん
(アメリカ合衆国
ペンシルベニア州出身)
田村市に来て2年目

私は日本にいた間にぜひ海に行ってみたくていつも考えていました。アメリカで大西洋を見に行ったことはありませんでしたが、海は汚れていて茶色だったのが、日本の海がどんな色なのか見たかったのです。昨年の夏に松島湾に行きました。松島湾はとても美しかったです。大きな音で浜辺に打ちつける波はありませんでした。そこで、太平洋岸に行くことにしました。私を知っている海岸はいわき市だったので、そこに行くのが最も簡単でした。



冬休みになるのを待って早速友人といわきの海を見に行きました。海を見るにはあまり良くない天気でしたが、とにかく見てみたかったです。一日中雨が降っていましたが、気温は10度でそれほど寒くはありませんでした。しかし、あいにく雨雲が周りの美しい自然をさえぎっていました。天気はよくありませんでしたが、なんとか海を見ることはできました。海水は興味深い緑色と青色の中間色のような色で、大西洋の色よりずっときれいでした。浜辺では、とても大きくて形の良い貝殻を見つけることができとても印象的でした。友人と一緒に海辺を歩き、飛ぶ海鳥や貝殻を見つけながら歩きました。浜辺と海水の美しさにとっても驚きました。靴を脱いで海に足を入れるほどの暖かさではなかったのが残念でしたが、きっと夏はとも感動するでしょう。私は冷たい海に足を入れる勇氣はありませんでしたが、そこでサーフィンをしている人たちを見て、とても驚かされました。おかげで、日本の海でたくさんすばらしい思い出ができました。